

変更内容

=====

□機能改善

-----

◆GlobalFamily4.00 対応

-----

1. GlobalFamily サーバー全般

内容 GlobalFamily Web クライアント 4.00R13 に対応しました。

詳細は GlobalFamily Web クライアント 4.00R13 のバージョンアップ内容を参照してください。

-----

◆GlobalSchedule

-----

1. スケジュール全般

内容グループ管理者に指定されているユーザーのセキュリティチェック処理速度を向上しました。

速度改善されるのは、以下の条件を全て満たす場合です。

- ・グループ管理者はシステム管理者ではない
  - ・管理しているグループの下層グループが多い
  - ・サーバー環境設定にて「所属グループ情報への管理グループの設定」が「1:する」となっている
- 

◆GlobalFlow

-----

1. プロトコル up\_fb30

内容ワークフローのメール送信で添付ファイル名にスラッシュ"/"が含まれていた場合、受信メーラーによっては添付ファイルが開けないことがありましたので、添付ファイル名にスラッシュ"/"が含まれないように改善しました。

-----

2. プロトコル up\_81f972

内容処理履歴一覧に、処理者の所属が表示できるようになりました。

表示するためにはワークフロー履歴関連情報テーブル (WF18) を作成する必要があります。詳細は「ワークフロー機能設定マニュアル 2.5 処理履歴にユーザー所属・役職を取得する

ためのテーブル作成方法」をご参照ください。

---

### 3. プロトコル up\_f460, up\_fb30

内容 AND 分離内の宛先インスタンスからは書類の呼戻しができませんでしたが、以下のパターンの場合は呼戻しができるように対応しました。

- ・次のインスタンスが宛先インスタンスで、書類回付中の場合・次のインスタンスが結合している場合（分離が否認優先のみ）かつ 結合直後が宛先インスタンスで、書類回付中の場合
- ・複数宛先で全員の遂行が必要なインスタンスで、まだ次のインスタンスへ 回付されていない場合

※次の回付先が保存インスタンスやメールインスタンスの場合はできません。

※複数宛先で全員の遂行が不要な場合では、遂行者か代理遂行者以外はできません。

詳細は GlobalFamily Web クライアント 4.00R13 のヘルプをご参照ください。

---

### 4. プロトコル up\_fb30

内容否認通知を送信する設定となっている書類を削除した場合、否認通知メールが送付されていましたが、削除通知メールを送るように対応しました。

---

### 5. プロトコル up\_fb30

内容帳票中の NM\_ で始まる入力項目を書類名と連携する機能を利用している場合、入力項目が空白の場合は書類名も空白となっていました。書類名は空白に置換えないように対応しました。

---

### 6. プロトコル up\_fb30

内容複数宛先で全員の遂行が必要な場合、最後のユーザーが遂行したときに遂行通知を送付していましたが、ユーザーが遂行するごとに遂行通知を送付することができるように対応しました。

詳細は「GlobalFamily UNIX サーバー版 運用手順書 3.2. サーバー環境設定ファイルの変更」をご参照ください。

---

### 7. プロトコル up\_fb30

内容複数宛先インスタンスで呼戻しを行った場合、呼戻したユーザー以外に遂行依頼メールを送付できるように対応しました。

詳細は「GlobalFamily UNIX サーバー版 運用手順書 3.2. サーバー環境設定ファイルの変更」をご参照ください。

---

### 8. プロトコル up\_fb30

内容ワークフローから送信されるメールについて最大同報メール数のチェックを行うように対応しました。最大同報メール数の指定は、サーバー環境設定項目の「最大同報メール数」にて行います。

指定した最大同報メール数を超過していた場合はメール送信は行わずに、メール送信元のユーザー宛に「メール数超過通知」メールを送ります。

【チェック対象となるメールの種類とエラー通知先】

・保存通知メール	保存者
・メール送信ボタンからのメール	処理者
・メールインスタンスからのメール	直前者

---

9. プロトコル up\_f740, up\_81f831

内容マスタープロセスのインスタンス設定画面を別々のユーザーが同時に更新しても、不正なインスタンス構成とならないように機能改善しました。

後から更新しようとしたユーザーに対して、更新中であるメッセージが表示されるようになります。なお、メッセージが表示された後に再度更新を行うと先に変更した内容は失われます。

この機能を有効とするには GlobalFamily Web クライアント 4.00R13 以降が必要です。

---

10. プロトコル up\_fb30

内容メールインスタンスからのメール送信で送信者を直前者にできるように対応しました。詳細は「GlobalFamily UNIX サーバー版 運用手順書 3.2. サーバー環境設定ファイルの変更」をご参照ください。

---

11. プロトコル up\_81fc73

内容個人進捗一覧で、テンプレート名称と所属を指定して特定テンプレート分だけの情報を取得する機能がありますが、マスターテンプレートの所属を変更した場合、旧所属で起案された書類を含めて取得できるように機能改善しました。ただし、マスターテンプレートが削除されている場合は、旧所属分は含まれません。なお、この機能は GAPI を利用されている場合にのみ有効になります。

---

12. プロトコル up\_fc61

内容書類件数取得で、テンプレート名称と所属を指定して特定テンプレート分だけの件数を取得する機能がありますが、マスターテンプレートの所属を変更した場合、旧所属で起案された書類を含めた件数となるように機能改善しました。ただし、マスターテンプレートが削除されている場合は、旧所属分は含まれません。なお、この機能はオフィス業務システムでのみ利用できます。

---

13. プロトコル up\_81f471, up\_81f772

内容グループ管理者に指定されているユーザーのテンプレート／プロセス一覧の表示速度を改善しました。

速度改善されるのは、以下の条件を全て満たす場合です。

- ・グループ管理者はシステム管理者ではない
- ・管理しているグループの下層グループが多い
- ・サーバー環境設定にて「所属グループ情報への管理グループの設定」が「1:する」となっている

---

◆ユーティリティ

---

#### 1. del\_sch\_memo

内容スケジュール不要メモ文書削除ツールを追加しました。

このユーティリティを実行すると、スケジュールメモ更新前の不要なメモが削除されます。詳細は「GlobalFamily UNIX サーバー版 運用手順書9. ユーティリティプログラムについて」をご参照ください。

---

#### 2. ls\_wlogu, fm\_wlogu

内容ワークフロー履歴ログ作成/表示ユーティリティを追加しました。

ワークフロー履歴ログ機能を有効にしている場合、このユーティリティを利用してワークフローの利用状況を確認できます。

詳細は「GlobalFamily UNIX サーバー版 運用手順書9. ユーティリティプログラムについて」をご参照ください。

---

#### 3. nwf\_dlog

内容ワークフロー履歴ログ不要データ削除ユーティリティを追加しました。

ワークフロー履歴ログ機能を有効にしている場合、このユーティリティを利用してワークフロー履歴ログを削除できます。

詳細は「GlobalFamily UNIX サーバー版 運用手順書9. ユーティリティプログラムについて」をご参照ください。

---

#### 4. ls\_doc\_info

内容キャビネット配下に登録されている全文書の文書情報を csv 形式で一覧出力するユーティリティを追加しました。

詳細は「GlobalFamily UNIX サーバー版 運用手順書9. ユーティリティプログラムについて」をご参照ください。

---

#### 5. nwf\_chk\_append

内容ワークフローで書類を起案し遂行するとき、添付ファイルの追加・削除などを行った場合に残る不要添付データの削除するユーティリティを追加しました。

本ユーティリティで削除対象となるデータは他の不要削除ユーティリティ(ワークフロー不要データ削除、ファイル不要実データのチェックと削除)を実行した場合にも削除することはできません。

詳細は「GlobalFamily UNIX サーバー版 運用手順書9. ユーティリティプログラムについて」をご参照ください。

---

### ◆ ツール

---

#### 1. tk\_rini

内容ユーザー情報の一括設定ツール(tk\_stini) で設定されている内容をエクスポートするツールとして tk\_rini を追加しました。

機能は大別すると以下の3機能になります。

- tk\_stini で再登録可能な形式で抽出する
- 特定ユーザーのユーザーデータファイル内容をそのまま抽出する
- 特定ユーザーのユーザーデータファイル内容をそのまま登録する

詳細は「GlobalFamily UNIX/WindowsNT 版 サーバー側ツールキットマニュアル」をご参照ください。

---

#### ◆SMTP ゲートウェイ

---

##### 1. unixtopios

内容国外からのメール送信日時を日本標準時に補正する機能を追加しました。

詳細は「GlobalFamily UNIX/WindowsNT 版 SMTP ゲートウェイ導入・運用手順書」をご参照ください。

---

不具合修正

---

#### ◆GlobalMail

---

##### 1. fromsmtp

内容インターネットからのメールで、SMTP フォーマットで添付ファイル名が JIS コードで記述されているようなメールを GlobalFamily Windows クライアントで参照した場合に、添付ファイル名が正しく表示されない不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6.00R00 以降発生します。

---

#### ◆GlobalDoc

---

##### 1. up\_bg

内容廃棄処理日の設定で文書が削除される際に、バックアップ文書が存在するとフォルダーの使用済みサイズが正しく計算されない不具合を修正しました。

使用済みサイズが正しく設定されていないフォルダーについては、使用済みサイズの再計算ユーティリティ (dfs\_acc) を実行することで正しい使用済みサイズが設定されます。なお、この不具合は Ver6.00R00 以降発生します。

---

#### ◆GlobalFlow

---

##### 1. プロトコル up\_f471

内容起案前保留した書類のテンプレートを削除した後、起案を行なうと「予期せぬエラー」が表示される不具合を修正しました。

「指定されたテンプレートは登録されていません」のメッセージを表示するようにしました。なお、この不具合は Ver6.00R00 以降発生します。

---

##### 2. プロトコル up\_fb30

内容ワークフロー文書、XML、CSV を保存する場合、帳票内に value 句の指定していないセレクトボックスが指定されていると、「文書保存エラー」となる不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6. 00R00 以降、ワークフロー文書は Ver6. 15R00 以降発生します。

---

### 3. プロトコル up\_fb30

内容ワークフローの遂行依頼メール等を本システムメール以外に送ると、Subject が文字化けする不具合を修正しました。

全角→半角→全角のように文字種が交互に出現し、ISO2022 文字列変換時に漢字が別々の行に分離されてしまう場合で発生していました。なお、この不具合は Ver6. 13R00 以降発生します。

---

### 4. プロトコル up\_fb32

内容プロセス中に未処理の存在しないユーザーが含まれている場合、強制処理実行時に存在しないユーザーで実行してしまう不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6. 10R00 以降発生します。

---

### 5. プロトコル up\_fb30

内容 AND 分離中に宛先インスタンスから書類の呼戻しができる不具合を修正しました。

呼戻しが可能となっていたのは、AND 分離 → OR 分離 → 宛先インスタンスのように、AND 分離を含んだ多重分離の OR 分離後にある宛先インスタンスです。

AND 分離中での呼戻し可能なインスタンスは、機能改善の GlobalFlow をご参照ください。

なお、この不具合は Ver6. 10R00 以降発生します。

---

### 6. プロトコル up\_fb30

内容分離中のインスタンスで書類を開いているときに呼戻しされていても、遂行できてしまう不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6. 10R00 以降発生します。

---

### 7. プロトコル up\_fb30

内容起案時に遂行通知が送られてしまう不具合を修正しました。

この不具合は、「遂行通知を送る」、「宛先未設定をスキップする」設定となったテンプレートを使用し、次の宛先がスキップされて書類が回付された場合に発生していました。なお、この不具合は Ver6. 10R00 以降発生します。

---

### 8. プロトコル up\_fb32

内容 AND 分離中の書類を強制否認すると、「強制処理できません」のエラーが発生する不具合を修正しました。エラーメッセージが出力される不具合で、処理自体は正常に終了しています。なお、この不具合は Ver6. 10R00 以降発生します。

---

### 9. プロトコル up\_f741, up\_f870, up\_f872, up\_f873, up\_f874, up\_f875, up\_f877, up\_f878, up\_fb30, up\_fc73, up\_fc78, up\_81f870, up\_81f871, up\_81fc73

内容一度起案前保留していた書類を起案し、起案処理途中で予期せぬエラーが発生した場合、書類としては成り立っていますが、起案インスタンスが複数表示される場合があります。

このような状態となった書類を復旧させて回付できるようにしました。

**【予期せぬエラーは以下のような場合で発生します】**

- ・ 処理プロトコルが途中までしか要求されなかった場合（通信エラー等で発生する可能性あり）
- ・ 処理中のプロセスを強制的に終了させた場合

**【予期せぬエラーで発生していた不正な動き】**

- (1) 起案前保留一覧に表示されない
- (2) 書類を開いて保留できない
- (3) プロセスのインスタンスで起案が2名表示される
- (4) 到着予定書類に表示される（起案者と書類回付先予定ユーザー）

**【復旧タイミングについて】**

書類の復旧は、再度保留を行うか起案を行うタイミングとなります。

復旧前の書類は、起案日と起案者が表示されていますが、不正な動き(1)～(3)は発生しません。(4)は一覧表示速度が著しく低下するため表示を抑止できませんが、復旧すると発生しなくなります。なお、この不具合は Ver6. 10R00 以降発生します。

---

10. プロトコル up\_fb30

内容以下の条件を全て満たしている場合、処理前のチェックで保存エラーが発生して起案できない不具合を修正しました。

- (1) 帳票形式の書類
- (2) 起案/遂行をバックグラウンド処理する設定が有効になっている
- (3) CSV 保存なら「CSV 出力機能拡張」が有効になっていない場合  
XML 保存なら「XML 出力機能拡張する・しない」両方の場合
- (4) 起案後、次の宛先までに、CSV/XML の保存インスタンスがある。なお、この不具合は Ver6. 17R01 以降発生します。

---

11. プロトコル up\_fb30

内容メールインスタンスからのメールは起案者が送信者ですが、処理履歴では遂行した人が処理者となっていた不具合を修正しました。

バージョンアップ後にメールインスタンスの処理を行うと、処理履歴の処理者は「起案者」となります。ただし、強制遂行・強制完了の場合は、送信者・履歴ともに強制処理者です。メールインスタンスからのメール送信者を直前者にするには機能改善項目をご参照ください。なお、この不具合は Ver6. 10R00 以降発生します。

---

12. プロトコル up\_f460

内容所属グループが 100 件以上あるユーザーが参照権のあるテンプレートで起案すると「あなたでは指定されたテンプレートを参照できません」のエラーが発生する場合がある不具合を修正しました。テンプレートの参照権に設定されているグループが所属グループの 100 番目以降(グループコード順)だったときにこの不具合は発生します。なお、この不具合は

Ver6.10R00 以降発生します。

---

### 13. プロトコル up\_fb30

内容本文更新設定を「起案時のみ可」と設定した書類が起案インスタンスまで戻された場合、本文更新して遂行しても「本文更新履歴」が残らない不具合を修正しました。

---

## ◆基本機能

---

### 1. プロトコル up\_8191

内容ユーザー設定情報（個人オプション等の情報）が変更前より短くなった場合、データベース上に不要なレコードが残ってしまう不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6.00R00 以降発生します。

---

### 2. up\_net

内容データ転送プロトコルにて指定ユーザー通信履歴ログが出力されていない不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6.15R00 以降発生します。

---

### 3. pp\_receiver

内容サーバー間接続環境で、旧サーバー（Ver.4.72 以前）からメールフォワードされた場合、サイズが 0 の不要なファイルが残る不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6.15R00 以降発生します。

---

### 4. pp\_receiver

内容サーバー間接続環境で、旧サーバー（Ver.4.72 以前）からフォワードされたメールを参照すると、「該当メールは存在しません。」のエラーが発生する不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6.15R00 以降発生します。

---

## ◆ユーティリティ

---

### 1. chg\_domain

内容管理地域コード指定なしで設定されたセキュリティデータの管理地域コードも変更対象となってしまう不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6.00R00 以降発生します。

---

### 2. iniedit

内容サーバー環境設定ツールで、「旧バージョンの設定ファイルの反映」の実行時に旧バージョンのワークフロー設定ファイル(nwf.ini)が存在しないと「旧バージョンの設定ファイル"XXXXX"が見つかりませんでした」("XXXXX" は旧バージョンの SMTP-GW 設定ファイルのパス)のエラーが表示される不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6.00R00 以降発生します。

---

### 3. nwf\_deld

内容保存インスタンスの通知先と参照セキュリティに設定した情報が不要データとして削



除されない不具合を修正しました。なお、この不具合は Ver6. 10R00 以降発生します。

---

#### 4. chg\_domain

内容管理地域コード変換ツールにて変換されていない情報があった不具合を修正しました。

以下の情報が変換されていませんでした。

- ・ ソート情報テーブルの登録者コード、更新者コード
- ・ ノード管理テーブルのフォーム更新者管理地域コード
- ・ スケジュールコードテーブルの更新者管理地域コード
- ・ テンプレート関連情報の保存先 DFS フォルダー管理地域コード
- ・ 履歴注釈情報の印影ユーザー管理地域コード

なお、この不具合は Ver6. 00R00 以降発生します。

---

#### 5. chg\_code

内容ユーザー/グループコード変換ツールにて変換されていない情報があった不具合を修正

しました。以下の情報が変換されていませんでした。

- ・ ソート情報テーブルの登録者コード、更新者コード
- ・ ノード管理テーブルのフォーム更新者管理地域コード、更新者ユーザーコード
- ・ スケジュールコードテーブルの更新者管理地域コード
- ・ テンプレート関連情報の保存先 DFS フォルダー管理地域コード
- ・ ワークフロー履歴注釈情報の印影ユーザー管理地域コード、印影ユーザーコード
- ・ ワークフロー履歴関連情報の代表グループコード
- ・ ユーザー情報テーブルの参照可能グループコード
- ・ 配布コードセキュリティテーブルのコード

なお、この不具合は Ver6. 00R00 以降発生します。

---

### ◆ ツールキット

---

#### 1. tk\_stini

内容ユーザーデータ一括設定で不正なデータがデータベース上に存在していた場合、「セクションが閉じていません。」のエラーが発生し、処理が停止してしまう

不具合を修正しました。不正データを読み込まないようにすると共に、以下のように改善しました。

- ・ エラーが発生したユーザーに対してユーザーコードをエラーメッセージとして出力
- ・ エラーが発生したユーザー以外は処理を継続

なお、この不具合は Ver6. 00R00 以降発生します。

---

#### 2. tk\_ucug

内容 0C 区分、9C 区分のユーザー登録で役職コードと役職名称を指定されていた場合、役職コードの名称を変更してもユーザーに反映されない不具合を修正しました。

この不具合は、役職コードの名称とユーザー登録に指定した役職名称が同じ場合に発生していました。また、役職コードの名称変更前にユーザー情報を画面から更新していた場合は発生しません。なお、この不具合は Ver6. 00R00 以降、9C 区分は Ver6. 15R00 以降発生します。

-----  
=====